

つながる^{いち}市

VOL.2

育てる人

7/23 Mon. 射手矢農園株式会社 / 泉州たまねぎ @泉佐野



まるごと、がぶり

大阪・泉佐野にある射手矢農園に到着するやいなや、「まず食べてみ!」と差し出された大きな大きな玉ねぎ。1個800gもあるという、泉州玉ねぎ長左エ門(ちょうざえもん)です。

生の玉ねぎを丸ごとかじる。テレビでは見たことがあります、いざ実際にかじってみると緊張します。射手矢さんに皮を剥いてもらい、おそろおそろ、がぶり。かじった瞬間、口の中いっばいにみずみずしさと甘さが広がりました。特有の辛味もほとんど感じず、生の玉ねぎとは思えないおいしさに思わず一同から驚きの声。

「そうなんすよ。辛味も、すーっと消えていくでしょ。玉ねぎ食われへんて言うてた小学5年生の子も食えるようになったんすよ。これをきっかけに玉ねぎが食えるようになった子がけっこうおるんです」

その子の気持ち、わかります。射手矢さんの玉ねぎには、ひとくち、またひとくちと食べ進めたい魅力がぎゅっと詰まっていた。





育てる人

作業場では収穫した玉ねぎを綺麗にして、仕分け、箱詰めしていきます。射手矢農園のみなさんが慣れた手さばきで黙々と作業。広い作業場のどこを見ても、玉ねぎ、玉ねぎ、玉ねぎの山。それを地道に丁寧に、ひとつひとつ綺麗にして箱詰めされていました。みなさんは、まるで家族のような仲の良さ。男前と美人揃いの、肝っ玉揃いです。

この日は5月に採れた新玉ねぎの出荷中でした。射手矢さんが隅々まで気を配られているのを横で見て、どんな業種でも良い仕事場とはこういうところだなあと思いました。



本当においしい玉ねぎを追い続ける射手矢さんに、無印良品 イオンモール堺北花田のテーマである、『おいしいってなんだ。』という問いを投げかけてみました。

「健康な野菜っっちゃうんは、おいしい。ストレスをかけて甘くするとかいうけど、僕は“ゆとり栽培”にしています。広い畑で、玉ねぎひとつひとつの間隔を大きく取って、のびのびと育てる。ぎゅうぎゅう詰めじゃなく、自由に十分に根を張れるスペースを与えてあげる。肥料やらを与えすぎでも足りなくてもあかん。健康に育つような環境をつくったらなあかん。その子が持つてる力をどれだけ自分で引き出せるか。ストレスなく育った野菜は薬も余分にいらないし、健康に育つ」

「味とかじゃないんすよ。そんなん人それぞれやし。健康なものはおいしい。僕の玉ねぎを表現するならば、みずみずしくってやわらかくって、甘い、やさしい味」

素人の私たちは農法や肥料の違いもわからないけど、『おいしい』という言葉の奥にいったいながあるんだろう？と、いろんな農家さんに『おいしいってなんだ。』と尋ねると、10人いれば10通りの答えを聞くことが出来ます。

言葉を聞くと、その人の持ってらっしゃる考えや気持ちが、少しわかるような気がします。人によって味を表現する言葉が違ったり、そもそもどんな人が発信するかだったり。

私たちはもっともっと生産者さんの言葉をお買い物していただけるお客様ひとりひとりにお伝えしていきたいと考えています。



玉ねぎ畑のもうひとつの顔

そして取材班一行は、射手矢さんが運転する軽トラの後ろに乗って、泉州の風を感じながら射手矢さんの畑へ。広大な落花生の畑を見せていただきました。

こちらの畑、取材した7月は落花生の葉で青々と茂っていましたが、春までは一面に玉ねぎが並んでいた畑なのだそうです。大きな畑を無駄にすることなく、一年中農作物をつくり続けているのですね。

落花生のすがたはすぐに頭に思い浮かびますが、落花生の花は初めて見ました。黄色の小さい、かわいらしい花です。

「花が落ちたところに実がなるから、落花生」

何気なくぱくぱく食べていた落花生も、こうして土から一生懸命芽を出して育つこと、かわいらしい花を咲かせること、そしてそれを支える人のことを知ると、また違った味になりそうです。



手をあわせていただきます

「昼飯にするで!」という射手矢さんの声で、午前中の作業は一旦終わり。射手矢さんの食卓で、奥さんのつくったご飯を皆でいただきます。今日の献立は大きな鍋いっぱいのカレーライス。

「マヨ取って」「おかわりいる?」「お茶ください」。せわしなく口いっぱいに頬張って、みるみるうちにカレーが減っていきます。

「はよ食べて、昼寝せなあかんからな」

農家は力仕事。午後からまた力いっぱい働くために、よく食べ、よく眠ります。



おいしいを育てるとのこと

おいしいとは、健康であること。射手矢さんの農園は、健康そのものです。朝が来て目覚め、よく働き、よく食べ、よく眠る。また働いて、食べ、眠る。そして一日が終わって、また朝が来る。射手矢さんと、働くなさんのそんなルーチンが、どうして豊かに見えるのは何故なのでしょう。

家族のような射手矢農園のあたたかい空気をつくりだしているのは、間違いなく射手矢さんその人です。「この人についていきたい」。そう思ってしまう不思議な引力が、射手矢さんにはありました。大きなからだに意外なほど繊細なやさしさで、農業にもスタッフにも向き合い、大事に育てます。そんな射手矢さんに育てられたからこそ、野菜も人も、健康に豊かに生きられるのでしょう。



射手矢農園株式会社（大阪泉佐野） <http://www.tamanegi.tv>
代表：射手矢 康之

撮影：平野 愛（写真家） <http://photoandcolors.jp>
住まい・暮らし・人の撮影から執筆まで行う。自然光とフィルム写真にこだわったフォトカンパニー「写真と色々」代表。

2018.8.11 取材・テキスト・デザイン
無印良品 イオンモール堺北花田 発行

無印良品